

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

1. 次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（借方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (2) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（貸方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (3) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥1,000、期首商品棚卸高は¥300、期末商品棚卸高は¥200であった。売上原価は仕入勘定で算定する。
- (4) 売掛金¥10,000 が回収不能となった。
- (5) 決算にあたり、売掛金¥10,000 に対して3%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は¥100である。
- (6) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株40,000に値下がりしているので、評価損を計上した。
- (7) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株60,000に値上がりしているので、評価益を計上した。
- (8) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。(直接法)
- (9) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。(間接法)
- (10) 備品(取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過)を現金¥70,000で売却した。(直接法)
- (11) 備品(取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過)を現金¥70,000で売却した。(間接法)
- (12) 備品(取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過)を現金¥60,000で売却した。(直接法)
- (13) 備品(取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過)を現金¥60,000で売却した。(間接法)
- (14) 消耗品を現金¥500で購入した。(購入時資産処理)
- (15) 上記(14)の消耗品について、決算日における未使用高は¥100であった。(購入時資産処理)
- (16) 消耗品を現金¥500で購入した。(購入時費用処理)
- (17) 上記(16)の消耗品について、決算日における未使用高は¥100であった。(購入時費用処理)
- (18) 決算日(3月31日)にあたり、12月1日に1年分¥1,200支払った保険料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (19) 6月1日に建物の賃借契約(期間1年、月額¥100)を結び、家賃は契約終了時に全額支払うことにしていたが、決算日(3月31日)にあたり、経過分を見越し計上する。
- (20) 決算日(3月31日)にあたり、12月1日に1年分¥1,200受取った手数料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (21) 6月1日に建物の賃借契約(期間1年、月額¥100)を結び、家賃は契約終了時に全額受け取ることにしていたが、決算日(3月31日)にあたり、経過分を見越し計上する。

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		
(9)		
(10)		
(11)		
(12)		
(13)		

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

	借方	貸方
(14)		
(15)		
(16)		
(17)		
(18)		
(19)		
(20)		
(21)		